



かながわの赤十字

令和5年度

事業報告(ダイジェスト版)

<令和6年能登半島地震>

日本赤十字社神奈川県支部および県内3つの赤十字病院は、被害が大きい石川県珠洲市に、医療コーディネートチームと医療救護班（医師、看護師、薬剤師、事務、赤十字ボランティア）を派遣。日々変化する医療ニーズに応じて、巡回診療や患者搬送等に当たるとともに、輪島市には、こころのケアチームを派遣しました。

●派遣状況

医療救護班

	派遣期間	派遣元 (赤十字病院)
第1班	1/4 ~ 8	横浜市立みなと (10人)
第2班	1/12 ~ 17	相模原 (10人)
第3班	1/15 ~ 20	秦野 (13人)
第4班	1/27 ~ 2/1	横浜市立みなと (14人)
第5班	2/5 ~ 10	秦野 (12人)
第6班	2/11 ~ 16	相模原 (11人)
第7班	2/17 ~ 2/22	横浜市立みなと (13人)
第8班	2/26 ~ 3/2	秦野 (10人)

合計 8班 延べ93人

災害医療コーディネートチーム

	派遣期間	派遣元 (赤十字病院)
	1/4 ~ 8	横浜市立みなと (3人)
	1/21 ~ 27	// (2人)
	3/3 ~ 3/9	相模原 (4人)

合計 3班 延べ9人

こころのケアチーム

	派遣期間	派遣元 (赤十字病院)
	3/8 ~ 3/14	横浜市立みなと (5人)

合計 1班 5人

奉仕団・ボランティア活動（支部災害対策本部支援センター）… 20人

<東京国際空港航空機事故>

羽田空港において発生した航空機事故対応のため、日赤神奈川県支部と横浜市立みなと赤十字病院から医療救護班（1班7人）を派遣し、乗客の健康状況確認など対応にあたりました。



巡回診療の様子



羽田空港における航空機事故対応

災害救護事業



救護班

地震や台風等の大規模災害が発生した際に、医師・看護師を中心とした救護班や、被災者の心理的な支援をおこなうところのケア班を被災地に派遣し、「医療救護活動」を実施します。また、災害発生に備えて、各種訓練や研修会も実施します。

訓練・研修会の実施および参加数

日本赤十字社関係訓練・研修会	9回
行政機関関係訓練	8回

救援物資の備蓄・配布

大規模災害の被災者に対して、緊急セット、安眠セットや毛布を届けます。また、災害救助法が適用されない火災・風水害等の被災者に対して、地区本部・地区・分区の協力により援護物資と見舞金等を迅速に届けます。

救援物資備蓄状況

毛布	18,610枚
安眠セット	410セット
緊急セット	5,928セット
タオルケット	1,000枚
ブルーシート	2,450枚

援護物資備蓄状況

援護物資（日用品）	1,057セット
-----------	----------

火災・風水害・床上浸水被災者援護

被災援護世帯	276世帯
援護物資お届け	274セット
見舞金等お届け	303件

赤十字奉仕団

県内では93団、約2万人の奉仕団員が活躍しています。赤十字活動は、奉仕団をはじめとする赤十字ボランティアによって支えられています。



県内の赤十字奉仕団

地域を拠点にして活動する奉仕団	51団	18,648人
大学生や若い人たちが集まった奉仕団	5団	266人
特別な知識や技術を生かした活動をする奉仕団	37団	1,644人
合計	93団	20,558人

赤十字思想の普及

見学・体験スペースとして「かながわ赤十字情報プラザ」を常設しています。赤十字の歴史や活動をご紹介するとともに、「赤十字de自由研究“いのち”を守る体験教室」の実施、大学での国際人道法を題材とした講義を行っています。



かながわ赤十字情報プラザ見学	27団体	776人
大学講義	1回	36人

青少年赤十字

自ら気づき、考え、実行できる子どもたちの育成を目的として、幼稚園、保育園、小・中・高等学校など教育現場に赤十字の理念、知識、技術を取り入れてもらい、活動につなげます。救急法や防災学習、国際理解・親善などさまざまな活動があります。



県内の青少年赤十字登録校

幼稚園・保育園	6園	558人
小学校	16校	3,979人
中学校	33校	8,942人
高等学校	39校	12,357人
特別支援学校	5校	1,024人
合計	6園93校	26,860人

(※) 中高一貫教育校は1校を中学校・高等学校の2校種でカウントしています。

国際活動

紛争や自然災害、病気などで苦しむ人々を救うため、国際赤十字のネットワークを生かして、医療や保健衛生事業、救急法の普及、気候変動等に対するレジリエンス強化などの支援を行うほか、国際救援要員を派遣します。



国際開発協力事業への支援 3カ国

バングラデシュ、ラオス、ルワンダ

健康・安全事業

いのちと健康を守るための具体的な知識と技術を伝える講習を、ボランティア指導員の協力のもと、県内各地で開催しています。

県内の講習開催状況 開催回数：976回 参加人数：20,656人

救急法	救命手当、けがの手当の知識・技術	開催回数：677回	参加人数：15,177人
水上安全法	水難事故防止、おぼれた人の救助の方法	開催回数：80回	参加人数：1,561人
健康生活支援講習	避難所での生活における高齢者への支援 認知症の方への対応と家族への支援	開催回数：79回	参加人数：1,603人
幼児安全法	乳幼児期に起こりやすい事故の予防とけがの手当 かかりやすい病気の対処方法	開催回数：140回	参加人数：2,315人
雪上安全法	雪上の事故防止、けが人の救助の方法	※令和5年度は開催なし	



救急法



水上安全法



健康生活支援講習



幼児安全法

医療施設の運営

全国で91の病院を、また県内では3つの病院を運営し、災害医療拠点病院の役割をはじめ、各地域における中核医療機関として日々、皆さまに信頼される病院運営に努めています。



社会福祉事業（ライトセンター）

介護が必要な高齢者、障がいにより支援を必要とする方々が、安心して生活できるよう、全国で28の社会福祉施設を運営しています。県内では、視覚障がい者のための総合的な福祉施設である「神奈川県ライトセンター」を指定管理者として運営しています。

蔵書数	29,113タイトル
図書貸出総数	29,353タイトル
相談・訓練件数	3,141件
スポーツ施設利用者数	9,378人
ボランティア活動延べ人数	14,990人
福祉教室・施設見学者数	949人



横浜市立みなと赤十字病院

外来患者数	280,715人（1日あたり 1,155人）
入院患者数	182,525人（1日あたり 499人）
病床利用率	78.7%

秦野赤十字病院

外来患者数	116,806人（1日あたり 481人）
入院患者数	70,238人（1日あたり 192人）
病床利用率	73.2%

相模原赤十字病院

外来患者数	85,346人（1日あたり 317人）
入院患者数	32,356人（1日あたり 88人）
病床利用率	67.0%

診療所（相模原市立青野原、千木良、藤野診療所）

外来患者数	15,178人（1日あたり 62人）
-------	--------------------

血液事業

血液製剤の安全性の向上と安定供給に努めています。県内では、7カ所の献血ルームと11台の献血バス等により、皆さまから献血のご協力をいただいています。

県内の採血状況

成分献血	114,949人
全血200mL	10,238人
全血400mL	208,095人
合計	333,282人

県内の供給状況

赤血球製剤	220,401本
血漿製剤	64,670本
血小板製剤	55,694本
合計	340,765本



世界の人道危機への対応

ウクライナ人道危機救援金

寄付状況：15,448,888円*



ウジホロドで衛生キットを配付する赤十字スタッフ

イスラエル・ガザ人道危機救援金

寄付状況：1,614,575円*



負傷者を搬送するパレスチナ赤新月社のスタッフ

※令和6年3月31日時点。いずれも日赤神奈川県支部受付分です。

赤十字のはじまり

赤十字は、スイス人の実業家「アンリー・デュナン」の提案から始まりました。デュナンは、著書「ソルフェリーノの思い出」の中で、「戦争で傷ついた人々を助けるための団体を各国に組織しておくこと」「この団体が行う戦地での救護活動を守るための、国際条約をつくること」という提案をしました。そして生まれた組織が赤十字です。現在、赤十字はネットワークを191の国と地域に広げ、紛争地における救護活動をはじめ、災害対策や医療・保健、社会福祉、青少年育成など幅広い活動を展開してきました。



アンリー・デュナン

神奈川の赤十字

職員数 **2,442人** (令和6年3月31日現在)

県内には6つの赤十字施設（支部、3病院、血液センター、社会福祉施設）と3つの診療所、7つの献血ルーム、11台の献血バスがあり、多くのボランティアの協力のもと、活動を行っています。また、各市区役所や町村役場、社会福祉協議会などに赤十字地区本部・地区・分区を設置し、地域での赤十字活動を推進しています。



日本赤十字社神奈川県支部

赤十字の活動資金

赤十字の活動は皆さまからの寄付により支えられています。

※赤十字病院、血液センターならびに社会福祉施設は施設毎の特別会計になっており、この決算には含まれません。
※個人住民税控除適用海外救援金の受付・送金分を除いています。

(令和5年度 決算)

収入	会費等収入	996,105,230円
	事業収入ほか	187,739,494円
	合計	1,183,844,724円
支出	事業支出	989,965,274円
	翌年度繰り越し	193,879,450円
	合計	1,183,844,724円

日本赤十字社神奈川県支部

〒231-8536 横浜市中区山下町70-7 TEL:045-681-2123 <https://www.jrc.or.jp/chapter/kanagawa/>

